被災した学童保育に対する宮城県の取り組み

池川　尚美
仙台市学童保育連絡協議会

宮城県では、津波被害のない地域でも震災後一か月以上、給水や食料確保に明け暮れ、生きることに精いっぱいでした。自宅待機の保護者も多く、情報収集を行うにも事情を尋ねられるにも厳しい状況が続きました。他県からの支援の受け入れにあたっても、現地の負担が大きく、受け入れの時期を慎重に見守ってきました。

じつは宮城県には、仙台市学童保育連絡協議会のほかには学童保育のネットワークがなく、二〇一一年一月に開催された「宮城県学童保育講座」（全国学童保育連絡協議会主催）を契機に、全県的なつながりを持とうとしていたところでした。そこで、全国の皆様から寄せられた義援金をもとに、仙台市学童保育連絡協議会が中心となり、「宮城県学童保育緊急支援プロジェクト」を立ち上げ、専従職員をおいて全県的な支援活動を展開することになりました。さらに、「未来を築く子育てプロジェクト　東日本大震災緊急支援プログラム」の助成も決まり、具体的な支援が始まったところです。

宮城の学童保育のほとんどは公設公営です。必要とされているものも被害の状況により、異なります。また、子どもたちを支える指導員自身が被災しており、心に大きな負担を抱えています。そこで、指導員のケアも必要と考え、指導員さんへのていねいな聴き取りから始めることにしました。ここでは、心の負担を少しでも軽くし、具体的な支援策をともに考えていくことで、指導員さんたち自身が解決していく力を取り戻していけるような支援をめざしました。

まずは、一月の「宮城県学童保育講座」に多数参加され、講師の河野伸枝さん（全国学童保育連絡協議会副会長・埼玉県指導員）の著作を読み合ったという七ヶ浜町に、五月二四日～二六日、「指導員支援プログラム」の活動として、河野さん・全国連協職員と入りました。そして、すべての指導員との懇談と保育への参加をもとに、課題を共有し、解決策を探りました。ここで得たものをもとに、今後は七ヶ浜町だけでなく、他の市町村への支援を行っていく予定です。

参加した七ヶ浜の指導員さんから貴重な感想が寄せられています。

〈指導員さんの感想〉

震災後、私たちはお互いの指導員のことが気にかかりながらも、自分自身のことをゆっくり話し合える機会もなく、見通しがないまま、やりくりして出られる時間の勤務が過ぎると、普段よりも不自由でやるべきことの多い生活へと戻る日々をおくっていました。こんな繰り返しのなか、このたびは、大切な大切な三日間を設けていただきました。

この三日間、午前一〇時から子どもたちが帰って来る時間まで、セミナーや講演会の形式とはまったく違う、ふれ合える形で、指導員の側にいてくださいました。お話した内容は、子どもたちが日々、給水のために何時間も待ったり、暗い怖い夜を何日も過ごしたり、支援物資のおやつや家の手伝いや、今までにない数々の経験をしたことで、相手を思いやる気持ちがより強くなったこと。一方で、津波や石油基地の爆発、何台ものヘリコプターの爆音、悲惨な風景を毎日、目の当たりにしたことで、心に深い傷を負った子どもたちがいること。そして、仮設住宅や避難所から通っている指導員もいるなか、指導員の胸の奥に溜まっていた、経験したこと、切ないつらい思い……。そのすべてを受けとめ、聞いていただいたことで思いが託され、私たちの涙となって溢れ出てしまいました。共有していただいた安心感の涙！　しっかり受け止めていただいたという信頼の涙！

指導員も三日間、なんとか交替で集まることができて最高でした。三つの児童館（学童保育）についても日替わりで二回ずつ訪問していただき、子どもたちと一緒にお弁当を食べて〝まったり〟したり、おやつも一緒に食べていただきました。室内遊びの様子、広場や校庭での様子、子どもたちと頭をくっつけあっての会話などなど。「バイバ～イ、また来てねえ～」と子どもたちも私たち指導員も大、大、大感激☆　いただいたこの力をバネにして、これからも指導員みんなで力を合わせ、助け合いながら「七ヶ浜っ子」たちのために保育していこうと思います。あ・り・が・と・う。

（七ヶ浜町はまぎく児童館指導員　遠藤るみ子）

東日本大震災学童保育義援金のお願い

＊皆さんから寄せられた義援金は、5月末日現在、12,561,237円となりました。ありがとうございました。被災地の連絡協議会と相談しながら、学童保育の支援に活用していきます。

［東日本大震災学童保育義援金の振込先］
・銀行コード：0005　店番：351
・三菱東京UFJ銀行　本郷支店
・普通預金　0012273
・全国学童保育連絡協議会
　代表　木田保男